

＜2020年度 開講講座紹介＞

《旧約各書講義 出エジプト記（通年） 水口功》

出エジプト記を通読しながら、イスラエルの民のエジプト脱出、神が民に与えた律法の意味、荒野での民の姿などに着目します。そしてキリストの来臨によって実現され、再臨によって完成される神の救いのご計画の素晴らしさを味わいます。

《「伝える力」を身につける～池上彰とスポルジョンに学ぶ～ （通年） 藤原導夫》

私たちがこの社会で生きていく上で、コミュニケーション能力は不可欠です。説教においても、それは欠くことのできない重要事です。その点において優れている池上彰氏とC.H. スポルジョンから共に学びたいと思います。

《新約各書講義 ローマ人への手紙（通年） 岩上敬人》

ローマ人への手紙を講読し、原典の意味を探りながら理解します。クラスでは近年出版されたジェームズ・ダン『使徒パウロの神学』をテキストとして、パウロ神学を理解し、さらにローマ書の各部に焦点を当てていきます。特にクラスでは、パウロが教える、神・キリス・聖霊・罪・義認（贖罪）・聖化などのキリスト教神学の根幹となる主題を整理し、理解を深めます。

《宣教学 福音による世界観の変革～日々福音に生かされ、キリストを 証しするために（通年） 三好明久》

イエス・キリストの十字架の死と復活を信じる者たちが、魂を救われ、永遠のいのちを与えられるだけでなく、その世界観が福音によって変革され、遣わされた文脈でキリストを証しする者たちとされることを学びます。

《聖書考古学（通年） 菊池実》

今もイスラエルの地では聖書の言葉と歴史を照らす多くの遺物を手にすることができます。出土した土器、建造物、農機具、偶像、コイン、墓、碑文等々。従来の学び方と異なる方法で光を当てて聖書の世界を楽しみ、み言葉を味わいましょう。

《カウンセリング特論～「人生の四季」を読む（通年） 堀 肇》

人間の一生を四季になぞらえたトゥルニエの名著『人生の四季』を通して、春、夏、秋を経て冬に至るまでの各時期を概観し、そこに見られる心理的・霊的課題を学びます。また必要に応じて同著者の『人生の意味』からも学びます。

《新約各書講義 ガリラヤの風に乗って ～マルコの福音書に学ぶ～（通年） 丸山悟司》

主イエスのことば「恐れなくて、ただ信じていなさい」（マルコ5：36）には、マルコの福音書のメッセージが集約しているように思われる。それは、「信仰だけがものを言う、信仰があればそれでよし」との意味であるが、原初の福音書から現代へのメッセージをくみ取っていききたい。

《組織神学序論（前期）～神学する喜び～ 朝岡勝》

神を知ることは喜びであり、神を伝えることも喜びです。神学とは、この喜びを聖書と歴史から受け取って来た、代々の教会の知的営みの集成です。この講義ではあらためて神学を「喜び」の学として位置づけ、受講生の皆さんとともに「神学する喜び」を味わっていきたいと思います。

《組織神学序論（後期）～神を愛するための組織神学序論～ 大嶋重徳》

組織神学と言うと、非常に難しいイメージがあるかもしれませんが。しかし神様のことを知りたいという情熱と愛こそが、神学することの大前提です。聖書とは何かというゴールを目指して、15回で神学序論を学びたいと思います。

《人物でたどる日本キリスト教史（通年） 坂本誠》

日本にはどのようにしてキリスト教が渡ってきたのでしょうか。またどのようにキリスト教は広まり、教会形成がなされてきたのでしょうか。誰もが知りたいそのような疑問を分かりやすく説明していきます。その時代に活躍した人物に焦点を当てながら丁寧に講義していきます。あなたも神が為してくださった壮大なキリスト教の歴史に参加しませんか。

《旧約各書講義 詩編（通年） 大井満》

多くの人に愛されてきた詩編を味わいます。前期は2017年度前期に取り上げた詩の一部を再読し、後期は新しい詩を学びます。前期・後期どちらか一方の受講も歓迎します。受講者は是非この機会に詩編を通読してください。

《新約各書講義 ヨハネの福音書（通年） 遠藤潔》

イエスはどんな方か。私は何者か。一年かけて「ヨハネの福音書」を通読しながら、今ここに臨在し、働かれるイエスと親しみ、信仰を新たにされ、永遠のいのちを味わわせていただきます。

《聖書から現代的諸問題を考える（通年） 河村従彦》

聖書は信仰と生活の規範ですが、現代的問題には聖書的にどう考えればよいか分かりにくいものもあります。みことばの原則を探りながら、信仰と科学、進化論、性、生命倫理、環境問題などについてごいっしょに考えます。